

# 急速 接近

最新OSのネットワーク機能を  
知り尽くせ

## ウィンドウズ Me



マイクロソフトの新OS「ウィンドウズMillennium Edition」のリリースが目前に迫った。ホームネットワーク機能の強化やマルチメディアへの充実した対応ぶりはインターネット接続が前提のPC環境を反映したもので、家庭で手軽に使えるという評価も高い。しかし導入にあたってはまだ悩むユーザーも多いだろう。ここでは新機能を中心にウィンドウズMeの実力を検証し、導入の決め手はどこなのかを見極めてゆく。

塩田紳二

編集部注：本記事では執筆、検証のために「ウィンドウズMe日本語版 RC1」を使用しました。これは評価用に提供されるバージョンで、一部の表示や仕様については実際の製品版と異なる可能性があります。8月20日現在正式な価格は未発表です。

### ついに9月末登場! まず知っておきたいMeの位置付け

9月22日に発売が決定したウィンドウズMeは、前バージョンのウィンドウズ98よりも、2月に登場したウィンドウズ2000が比較の対象となることが多い。このOS並立の状況について整理しながら、Meが登場した経緯とその役割を概観してみよう。

#### 95/98系OS最後の マイナーバージョンアップ

ウィンドウズMillennium Edition（以下ウィンドウズMe）は、現在のウィンドウズ98セカンドエディション（SE）の後継にあたるOSだ。現在マイクロソフトではPC向けに2つのアーキテクチャーのOSを提供している。1つはウィンドウズ95からの流れをくむOSで、ウィンドウズ95/98/98SE、そして今回リリースされるMeがこれにあたる。もう1つはウィンドウズNTとその後継であるウィンドウズ2000だ。後者はビジネス用として位置付けられ、ウィンドウズ95/98系列が家庭用、一般ユーザー用OSとして普及している。

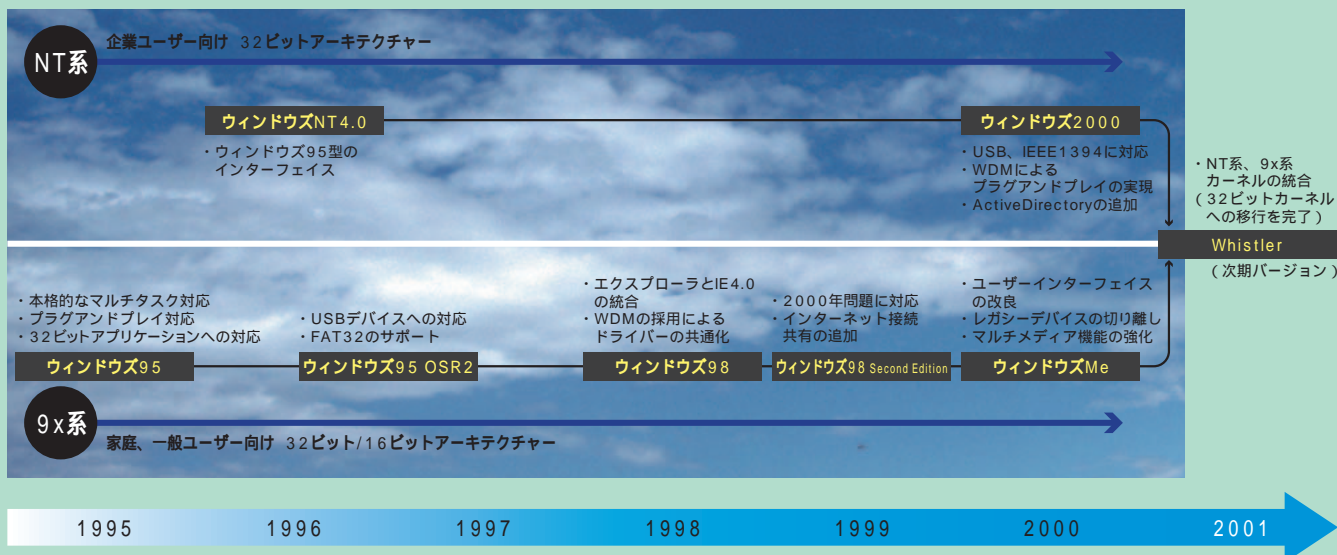
マイクロソフトはかつてウィンドウズ98SEの後継OSには、NTや2000と同じカーネルを使う方針だった。しかし昨年になってその計画を断念し、今回Meをリリースするに至った。その最大の理由は、現在のウィンドウズ95/98がカバーするハードウェアやソフトウェアのうち、ウィンドウズNT/2000では対応できないものがいまだに多く、完全な32ビット化にはまだ時期尚早だという判断が働いたからだ。ウィンドウズMeはウィンドウズ2000と統合する直前の段階のOSであり、98SEからマイナーバージョンアップした移行の最終準備のためのOSと位置付けられる。

つまりウィンドウズMeの目的は単なるユ

ーザーの移行だけではない。このOSを使いやすくする新規ハードウェアの普及を促すことで、OSのスムーズな移行と統合を妨げるアプリケーションやハードウェアの自然消滅をねらうものだといえる。MeではMS-DOSモードが消え、旧態依然としたハードウェアを切り離し、新しいIPCが一般化する時代にらんだ作りになっているのだ。

またウィンドウズ2000をビジネス用として普及させるために、Meはより家庭向けという側面が強調された。マルチメディアへの対応を強化し、家庭内の小規模なネットワーク構築をより簡単に行えるようにしたことも、そのあらわれである。

## ウィンドウズOSの流れ



## 旧式デバイスを排除し「Easy PC」を志向

ウィンドウズMeの特徴の1つは、「レガシーデバイス」を排除した「Easy PC」に対応したことだ。レガシーデバイスとは、PC/ATの時代から使われてきたISAバスやフロッピー、PS/2キーボードなどのデバイスを指し、ハードウェアの互換性を維持するために、これまでなかなか廃絶できなかったものである。

これらは古い周辺機器やアプリケーション、昔のOSを動かせる代わりに、起動処理が長くなったり、ユーザー設定の負担が重くなったりするなど、多くの問題の根源でもあった。最近ではインターネット接続を主目的としてPCを購入するユーザーも多く、周辺機器やアプリケーションとの互換性の維持が隠れたコスト増となっていたり、複雑さを増していたりするというデメリットも目立ってきた。

そこでこうした古いハードウェアから脱却する「レガシーフリー」というコンセプトが提案され、それを実現する「Easy PC」という仕様が確立された。レガシーフリーのPCでは起動時間を短縮でき、周辺機器の接続も煩雑ではなくなるなど、メリットも大きい。ウィンドウズMeは、これまでのPCが使いづらかった要因をハードウェアの面から解消するこのEasy PCへの対応を重視している。

## 新機能から見るウィンドウズMeの3本柱

ウィンドウズMeが持つ新機能の特徴は、右の表のとおりだ。

システムの復元機能やシステムファイルの保護など、ウィンドウズ95/98の弱点をカバーするような機能も含まれている。ウィンドウズ98ではシステムに必要なファイルを誤って消さないように、初期設定でそれらをエクスプローラ上で表示させないという方法がとられたが、今回はより強力になった。自動でシステムファイルの破損をチェックして、修復まで行うようになったのである。

インターネット関連では、家庭内のネットワークを構築し、インターネット共有の設定までを行う「ホームネットワークウィザード」が装備された。また、ネットワーク対戦可能なゲームも付属している。デジカメやDVを手軽に接続し、撮影した静止画やビデオを扱うアプリケーションも標準で付属した。

ウィンドウズMeでアナウンスされているおもな特徴と新機能

よりやさしいパソコンの追求	Easy PCコンセプト	247ページ
	システムの復元ウィザード	248ページ
	システムファイルの保護	248ページ
	サポート自動化フレームワーク	249ページ
	ヘルプセンター	249ページ
より快適なインターネット環境	ホームネットワークのサポート	250ページ
	インターネットエクスプローラ5.5	
	ブラウザー機能の統合	251ページ
	アウトルックエクスプレス5.5	251ページ
	NetMeeting3.1	251ページ
手軽に始めるデジタルメディア	MSNメッセンジャーサービス	251ページ
	Windowsムービーメーカー	252ページ
	デジタル画像の自動取り込み	252ページ
	ウィンドウズメディアプレイヤー7	252ページ

# Me

## 初心者にはやさしく、中級者でもしっかり使える ビジュアルと安全性を重視したPC環境に

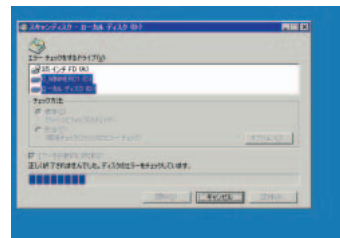
Meはその見た目や操作性から家庭向け、初心者向けという性格が強調されがちである。しかしシステムファイル保護や、散らばっていたシステム管理機能を取り込んで一新されたヘルプ類などを見れば、もっと多くのユーザーが恩恵を受けられる独自のMeカラーがあることに気が付くはずだ。

### DOSを省いて 起動時間を短縮

ウィンドウズMeの起動時にはDOS用ドライバーの読み込みなどが省略された。最初から32ビットモードで動作し、各種ドライバーが読み込まれる。F8キーを押しながら起動したときにオプションとして選べたMS-DOSコマンドモードは使えなくなった。98や98SEでは一見DOSが起動していないように見えるが、実際にはConfig.sysなどで記述されたDOS用のドライバーが組み込まれ、プロテ

クトモードの移行後にドライバー類が読み込まれる。起動時にドライバーを読み込む必要があるデバイスが少なからず存在するのに配慮した仕様だったが、Meでは起動時間の短縮を優先したというわけである。とはいえ最近5年以内に発売された製品ならばまずDOSドライバーの読み込みは不要である。

BIOSが対応すればさらに起動時間を短くできるが、こちらはウィンドウズMeをプリインストールして発売する新機種に限られてくるだろう。



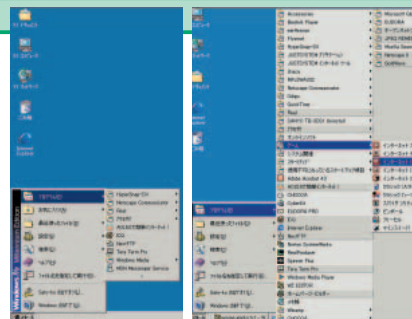
プロテクトモードで実行されるスキャンディスク  
ウィンドウズMeを起動すると最初にドライバー類が読み込まれてすぐにプロテクトモードで動作が始まる。これまでDOSモードで行われていた起動時のスキャンディスクやレジストリの復元などもプロテクトモードで実行される。

### ウィンドウズ2000に近い インターフェイス

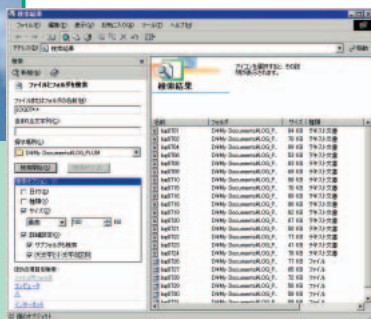
ウィンドウズMeのGUI(グラフィカルユーザーインターフェイス)は95や98に似ているが、実際にはウィンドウズ2000に近いものになっていると言ったほうがよい。これらの多くはオフィス2000で実験的に採用され、その後ウィンドウズ2000に反映されたものである。たとえばスタートメニューでは、利用頻度の高いものだけが最初に表示され、頻度の低いものは表示されない。

このほかコマンドダイアログも一部が変更され、「ファイルを開く」ダイアログボックスではウィンドウの左側に「プレースパー」と呼ばれる領域が作られ、ここに「マイドキュメント」や「履歴」などのアイコンが置かれてファイルにアクセスしやすくなった。

デスクトップ上の「マイドキュメント」フォルダーには「My Music」や「My Picture」、「My Videos」のようにメディアごとにフォルダーが作られ、「My Picture」フォルダーでは画像の縮小表示が可能になっている。



デスクトップアイコンとスタートメニュー  
見た目にはウィンドウズ98と同じようだが、実際にはむしろウィンドウズ2000に近いGUIになっている。利用頻度の低いメニューは最初に表示されない。



ファイルとフォルダーの検索  
ファイルやフォルダーの検索機能はIEのエクスプローラーのようになり、ウィンドウズ95/98のように別のダイアログではなく、エクスプローラー内に表示されるようになった。



コントロールパネル  
標準表示はアイコンと解説によるものになり、利用度が高く比較的一般向けのものだけが表示される。うっかり起動して設定を変更してしまうのを防ぐ仕組みになっている。

### そのほかのおもなインターフェイスの変更点

- ・ネットワークコンピュータから「マイネットワーク」への名称変更
- ・コントロールパネル内にタスクバーとスタートメニューの設定が移動
- ・コントロールパネルの各項目をスタートメニューから展開するオプションを追加
- ・「ファイルのプロパティ」ダイアログで起動アプリケーション設定も変更できるように
- ・「フォルダオプション」で、ファイルタイプ



プレースパー(ファイルを開く/保存)  
ウィンドウ左にプレースパーが置かれ、ここから「マイドキュメント」などをワンクリックで開けるようになった。



画像のサムネイル表示  
「My Picture」フォルダーでは画像ファイルをサムネイル表示する。ここにファイルを置くだけで自動的に縮小表示になり、エクスプローラーの左側にあるプレビュー領域では拡大縮小表示や印刷などができる。

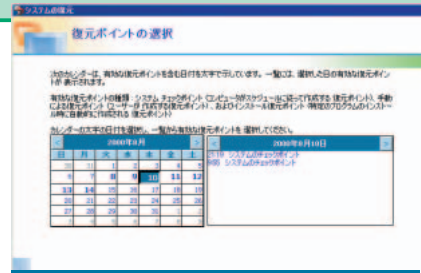
- でなく拡張子ごとの設定が可能に
- ・エクスプローラーの「表示」メニューに「フォルダカスタマイズウィザード」を追加
- ・エクスプローラーの「編集」メニューに「フォルダヘコビー(移動)」が追加
- ・IE5.5導入にともなうチャンネルバーの廃止
- ・ショートカットにコメントを付ける機能が付き、カーソルを当てるとコメントがポップアップ表示されるように

## システム保護機能も充実

システム保護機能には、「システムの復元」と「システムファイルプロテクション」などの機能がある。前者はある時点（復元ポイント）でのシステムを記録し、それをもとにウィンドウズMeを以前の状態へ戻す機能だ。これでアプリケーションをインストールして調子が悪くなったときでも、元の状態へ復帰させることがかなり安全にできるようになった。MeではPCを10時間以上連続して使用したときや24時間以上電源オフであったとき、そしてユーザーが指定したときなどに復元ポイントを作成する。システムの復元には、この

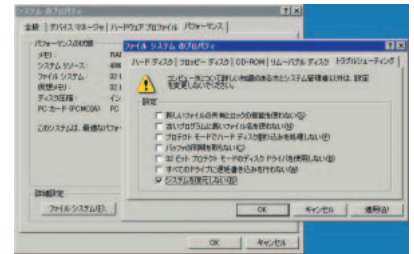
復元ポイントを指定する。データが残っていれば、以前のどの状態にも戻せる。

システムファイルプロテクションは、システムの動作に影響を与えそうなファイルの上書きや消去を監視し、自動的に修復する機能だ。これはユーザーの誤操作だけでなく、古いアプリケーションのインストールなどでも働き、重要なファイルの変更を阻止できる。なおシステムのアップデートは、次に説明する「自動アップデート機能」を使うので、ファイルプロテクションとは関係なくアップデートができるようになっている。



### システム復旧ウィザード

「システムの復元」は、システムファイルなどの構成を記録する「復元ポイント」の作成と、それを使った復元を行う機能がある。「コンピュータを以前の状態に復元します」を選択すると、カレンダーが表示され、そこから復元ポイントを選択して復元操作を行う。



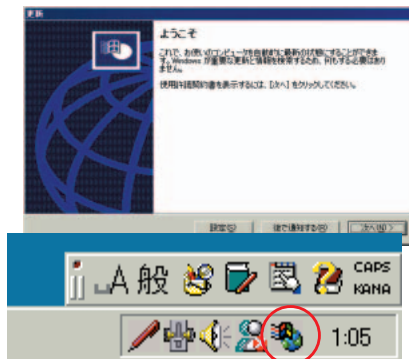
### ファイル保護

システムディレクトリーにあるDLLファイルなど（非使用中に限る）を他のフォルダーへ移動させたり削除したりすると、元のファイルがシステムディレクトリーに自動的に復元される。これは、ファイル保護機能がシステム関連のファイル操作を監視しているため。

## より自動化されたアップデート機能

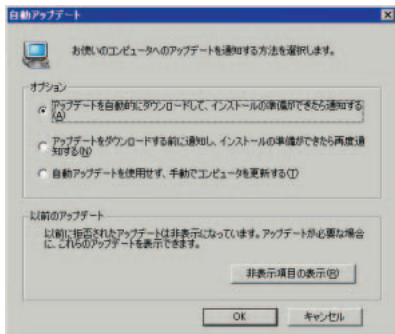
ウィンドウズMeの自動アップデート機能は98から採用された「Windows Update」よりも自動化が進んだ。インターネット接続中にアップデート内容をチェックし、自動的に必要なファイルをダウンロードして、インストールの準備までできてからユーザーに通知する。従来どおりユーザーが手動で設定したり、ダウンロード前に通知したりもできる。

自動ダウンロードはインターネットに接続中で回線が空いているときにバックグラウンドで行われる。ユーザーがネットで作業しているようなときに邪魔にならないようになっているが、ダイヤルアップルーターの設定によってはひんぱんに接続を繰り返してしまい、かえって邪魔になることもあるので要注意。



### 自動アップデート設定ウィザード

初めてウィンドウズMeを起動してインターネットに接続すると、しばらくしてタスクバーに「更新の通知」アイコンが表示されてメッセージが表示される。クリックするとウィザードが開き、初回は利用許諾契約などの確認が求められる。



### 自動アップデートの設定と実行

コントロールパネルから「自動アップデート」を選択。自動チェックや自動ダウンロードの有無、手動処理などの設定を変更できる。また、いったんユーザーが無視したアップデート情報を再度表示させる機能もここから利用する。

## システム設定を取り込みヘルプとサポートが一体化

ウィンドウズMeのオンラインヘルプ（HTMLヘルプ）は単に困ったときに読むだけでなく、さまざまな機能を統合し、サポート機能と一体化している。

ヘルプファイルとしても従来とはレイアウトを一新して見やすくなっているほか、システム情報の表示やネットワーク診断機能なども統合されている。「サポート」を選ぶとマイクロソフトに質問メールを出してその回答を受け取ったりMSNの中のメッセージボードへアクセスしたりできる。ウィンドウズMeのユーザーサポートは自動化され、それをOS上で実現しているというわけだ。



### ヘルプ表示

ヘルプは左側が項目リスト、右側が内容表示というレイアウトになり、全体の見通しが改良された。

### ヘルプセンター

ヘルプセンターには「システム情報」や「ネットワーク診断機能」なども統合され、単なるヘルプだけでなく、トラブルシューティングに必要な情報に集中してアクセスできるようになっている。



## PCが2台、3台でも心配ご無用 ホームネットワークの機能がコレ1つでOK

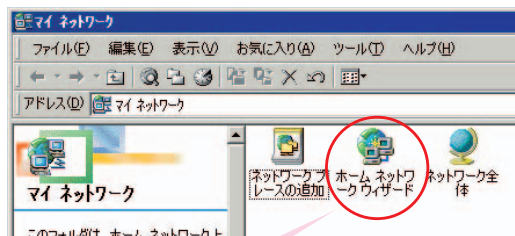
家庭内に複数のパソコンがあってネットワークで接続されていることも、すでに珍しいことではなくなった。ウィンドウズMeではこうした家庭内の小規模なLAN環境を考慮したホームネットワーク機能を提供してくれるので、簡単な設定でネットワークを構築できるようになっている。

### 「マイ ネットワーク」から一元管理

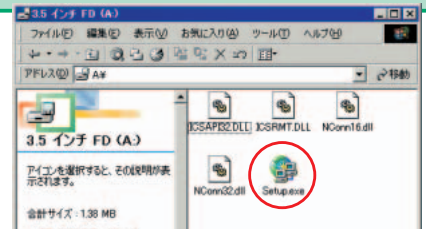
「マイ ネットワーク」の中にある「ホーム ネットワークウィザード」で行うのは、LAN 関連の設定とインターネット接続の共有である。ホームネットワークウィザードは98のころの「インターネット接続ウィザード」と同様に簡単な項目の入力で短時間のうちにネットワークを設定できる。それだけでなく、ほ

かのPCを同じワークグループに組み込んでネットワークを構築するための「ホーム ネットワークセットアップディスク」を作成できる。このディスクにはホームネットワークウィザードの最小パッケージが入っている。これを使ってMeを導入していない残りのPCでもウィザードを起動して、同様の操作手順で設定を行えば、インターネットにもつながる家庭内LANをすぐに構築できるというわけだ。

### ホームネットワークウィザードの流れ

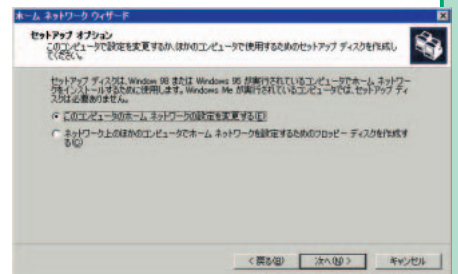


マイ ネットワーク  
ホーム ネットワーク ウィザード

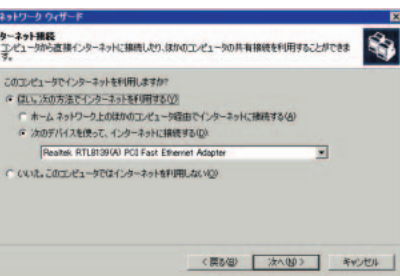


#### セットアップディスクの内容

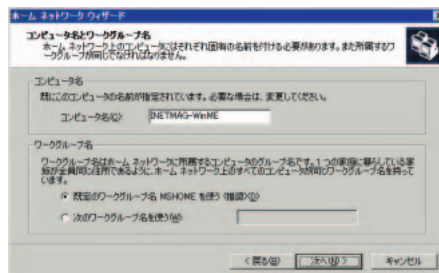
ホームネットワークセットアップディスクの中身はこうになっている。95または98マシンで「setup」を起動するとMeと同様にホームネットワークウィザードが起動する。



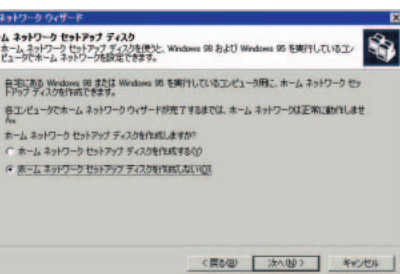
1 まずは使用しているPCの設定を行う。「このコンピュータのホームネットワークの設定を変更する」を選択。



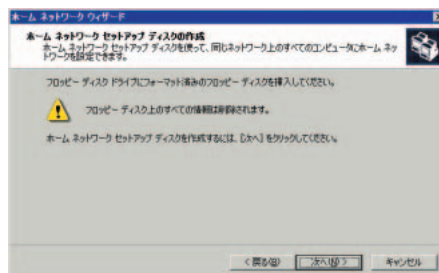
2 モデムやLANなどインターネット接続の方法を指定する。モデムを選ぶとこのあと接続共有の設定も行うことになる。



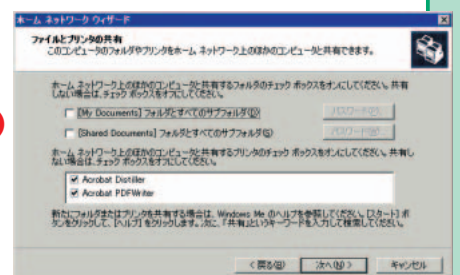
3 コンピュータ名およびワークグループ名などをを入力する。初期設定ではMSHOMEというワークグループ名が設定される。



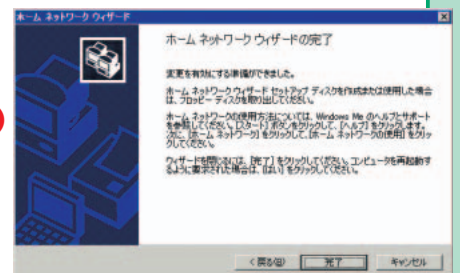
5 ほかの95/98マシンとネットワークを作るために同じ設定をしたいときにはセットアップディスクを作成する。



6 「ディスクを作成する」を選択するときはフォーマット済みのフロッピーディスクを1枚準備しよう。



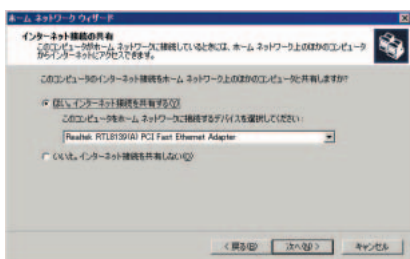
4 ファイルフォルダーとプリンターの共有を設定する。フォルダーの共有時にはできるだけパスワードを設定しておこう。



7 以上で設定は完了する。接続方法やワークグループ名などを変更すると、このあと再起動を求められることもあるので指示に従う。

## インターネット接続の共有

1台のPCをインターネットに接続するだけで、LANで接続された複数のPCが同時にインターネットに接続できるのが「インターネット接続の共有」機能だ。ウィンドウズMeのインターネット接続共有では、LAN側のマシンにはプライベートアドレスを使い、インターネットに接続しているマシンで、グローバルアドレス（インターネット側のIPアドレス）への変換を行う。つまり接続用のPCは自動でDHCPを行う機能だけでなくNAT機能も持っているのだ。このインターネット共有を使えば、モデムやTAが1台だけでも家庭内のPCすべてからインターネットを簡単に使えるようになる。

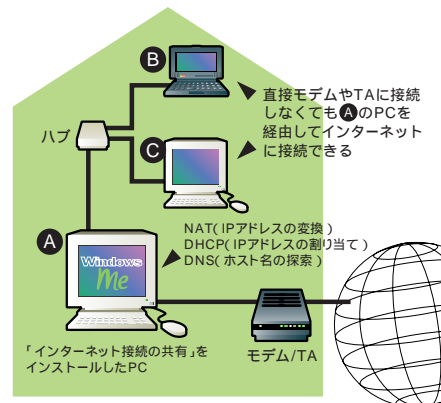


接続共有の設定

インターネットに接続できるPCで「ホームネットワークウィザード」を起動する。そのあと他のPCはセットアップディスクを使うと自動的に設定される。

## 接続共有の仕組み

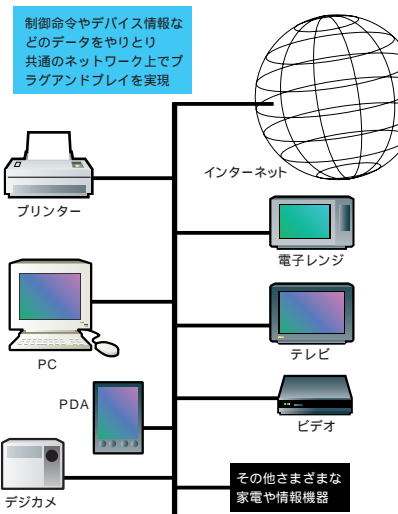
接続共有は他のPCからパケットを受け取り、これを中継していることになる。家庭とインターネットとの通信は、常に接続しているマシンがプロバイダーなどから割り当てられたIPアドレスを使い、適宜IPアドレスを変換する。同時にDHCPサーバーの機能を持ち、他のホストへIPアドレスを割り当てることも行う。こうした動作は、市販のルーターとほぼ同じもの。つまりソフトウェアによってルーターの機能を実現するわけだ。



# Me

## 将来に備えて UPnPもサポート

マイクロソフトが提唱しているユニバーサル・プラグアンドプレイ（UPnP）とは、家電もPCも同一のネットワークで接続して相互に通信できるようにする仕組みだ。OSの管理下で利用できるのはPCに直接接続されていた機器だけだったが、UPnPを使うと、それ以外の機器もネットワークを介して制御できるようになる。まだ対応機器は存在しないものの、ウィンドウズMeではこうしたUPnPのサポートがアナウンスされている。UPnP対応機器は相互に機能や種類などの情報をやりとりするので、接続すると自動的に他の機器から存在を認識される。このためユーザーがドライバーを組み込む作業も不要で、接続するだけでその機器を利用できることになる。



## インターネットツールもバージョンアップ

ウィンドウズMeに付属するインターネット関連のツールには、インターネットエクスプローラ（IE）5.5や電子メールソフトであるアウトルックエクスプレス5.5などがある。また、MSNメッセンジャーサービスが標準搭載となった。ほとんどはバグ修正がおもな変更

点であり、外観などは特に変わっていない。IE5.5のバージョンアップ点のうち目に見える部分は、印刷プレビュー機能の追加である。これは、ページを印刷する前にページごとのイメージを画面で確認する機能である。このほか、ダイナミックHTML機能の強化や表示速度の向上などがIE5.5の変更点となっている。



IE 5.5の印刷プレビュー機能

新たに搭載された機能で、文字の大きさを変えられるようになっているが、ページレイアウトやページそのものの拡大、縮小には対応していない。

### バージョンアップしたインターネットツール

- ・インターネットエクスプローラ 5.5（WWWブラウザ）
- ・アウトルックエクスプレス 5.5（電子メールソフト）
- ・MSNメッセンジャーサービス 2.2（インスタントメッセージソフト、新たに標準添付）
- ・NetMeeting 3.1（オンライン会議ツール）

# Me

## オーディオ、画像、動画まで幅広いメディアを強力サポート

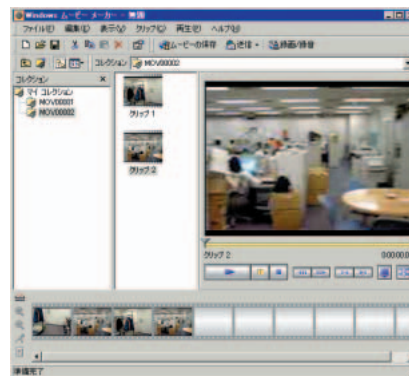
マルチメディア機能の強化もウィンドウズMeの特徴の1つ。ビデオ編集ができる「ウィンドウズムービーメーカー」が付属し、さらに画像を扱う機器を接続するためのWIA(Windows Image Acquisition)機能が搭載された。また、すでに配布が行われているウィンドウズメディアプレーヤー7も標準で利用できる。

### ウィンドウズムービーメーカー

ムービーメーカーは、ウィンドウズメディア形式のビデオを作成するための編集ツールだ。生成されるASF動画はMPEG4準拠のもので、圧縮率は高いが画像の質はあまりよくない。編集用の素材はMPEGやAVIなどの動画ファイルのほか、パソコンに接続された映像入力機器、たとえばIEEE1394で接続されたデジタルビデオやビデオキャプチャーカー

ドなどからの直接入力もOKだ。動画の編集操作としてできるのは複数のビデオクリップをまとめて1つにしたり、複数に分割したりという簡単なものに限られるが、音声をあとから追加するアフレコや、BGMの追加もできるようになっている。

ムービーメーカー動画を編集してメールで送るなどの用途を想定している。動画をつなぎたり切り替えることはできるものの、複雑なシーン変更やタイトルロールの作成などの機能はなく、あくまで最低限の機能を持ったツールと考えたほうがよい。

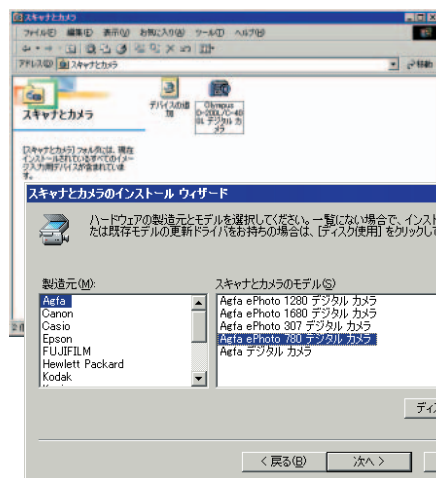


### ウィンドウズメディアプレーヤー

サウンドや動画などを再生するウィンドウズメディアプレーヤー(WMP)の最新バージョンであるWMP7には、新たにCDからHDDへの録音機能が追加された。録音した曲はウィンドウズメディアオーディオ(WMA)形式で保存され、PC上で再生するだけでなくWMAに対応した携帯音楽プレーヤーへの転送機能も用意されている。

HDD内のさまざまなメディアファイルをデータベース化する機能も持っていて、音楽CDではアルバム名や曲名などをインターネットからライブラリーに取り込む機能も備えている。また日々提供されるおすすめ音楽情報も「メディアガイド」としてプレーヤー上でチェックできる。

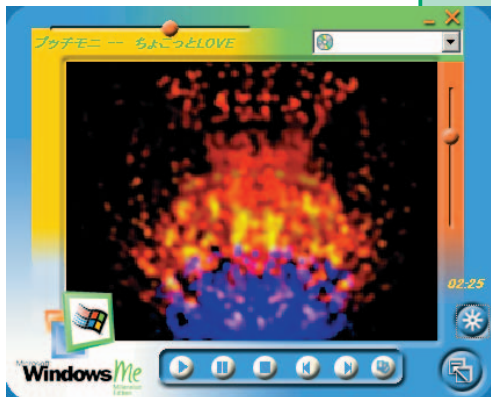
### Windows Image Acquisition (WIA) 規格のサポート



#### WIA サポート

デジタルカメラやイメージスキャナーをウィンドウズが直接管理するデバイスとして扱えるようになった。APIも整備されて画像取り込みに対応するアプリケーションも作りやすくなっている。

WIAは、静止画などを扱うデバイスをウィンドウズMeで統一的に扱う仕組みだ。イメージスキャナーなどには、「TWAIN」という規格が用いられていたがWIAはそれに代わるものというわけだ。WIAに沿ってサポートされたスキャナーやデジカメは、機種によらず取り込み用の画面が共通化されるなどのメリットがある。また画像デバイスがウィンドウズの標準機能として取り込まれる(たとえば、デバイスがマイコンピュータの中に表示される)ため、画像の管理や蓄積が統合的でより手軽なものとなった。



ウィンドウズメディアプレーヤー7さまざまなメディアの再生機能を持つWMP7は、再生だけでなく、メディアの管理やデバイス間の転送などもサポートする。スキンセレクトで外観を変更することも可能。

# Windows Me

## Me

今世紀最後の分かれ道、いよいよ迫る！  
ウィンドウズMe 導入のポイントはココだ！

「98サードエディション」としての位置にあるウィンドウズMeは、誰かれ構わずおすすめできるOSというわけではない。安定性や高機能さを選ぶか、親切さや新しさをとるか。使い慣れたOSの一部にアップデートをかけるだけという選択肢も含め、導入を検討するための重要なポイントを以下に示した。

一部機能だけの  
アップデートでも十分？

ウィンドウズ98/98SEユーザーにとって最大の疑問はまさに「ウィンドウズMeに今すぐアップグレードすべきかどうか」ということだ。

Meの変貌はやはりマイナーバージョンアップの域を脱しえない。IE5.5やWMP7など一部の機能はマイクロソフトのウェブサイトや本誌付録のCD-ROMなどでも先行して配布されており、それらは旧OSでも十分使える。今回紹介した「インターネット接続の共有」も、設定方法が違うものの、98SEですでに使えるようになっている。

これらが自分の使い方にとってもっとも重要な要素であるとしたら、ウィンドウズMeへのアップグレードは十分考慮に含めてよい。しかしそれは逆に言うと、こうした要素を重視しないならば当面はウィンドウズ98や98SEのままでも十分であり、適宜アップデートモジュールを適用して使い続けても特に問題となるわけではないという

## プリインストール機を待つのは得か？

ウィンドウズMeをどうしても使いたいというならば、Meがプリインストールされたメーカー品が出そろふのを待つという選択肢が魅力的になるかもしれない。快適さに大きく影響する起動時間を短くするには新しいマザーボードやBIOSが必要なため、現行品では十分に力を発揮できない可能性が高い。見

ことである。

OSのアップグレードには多少のリスクも生まれる。メーカー製PCのユーザーならばまずはメーカーの告知する情報などを入手して、自分のPCがアップグレードを推奨する機種に該当するかどうかを参考にすべきだ。Meを使うためには98SEよりもやや高いスペックが要求される。ペンティアム -300MHz程度、実質的にはそれ以上のCPUが要求されるムービーメーカーをはじめ、「ヘルプとサポート」などを十分快適に使うには相当な環境が必要になってくる。

た目にはウィンドウズ98SE搭載機種と似ていても、内部的に改良されていることも考えられる。

周辺機器にしても通常のアプリケーションはウィンドウズ98/98SEにも当面は対応するが、WIAの採用により今後登場するイメージスキャナーやデジカメなどではMeと98で使い勝手が大きく違ってくるはずだ。

Meへのアップグレードがあまり積極的に推奨されていないのは、2001年に32ビットへ完全移行したウィンドウズOS、通称「Whistler」の登場が控えていることにも背景がある。だが製品パッケージの価格は8月20日の段階では未発表なものの、当初の予想価格から大幅に値下げされ（米国版はキャンペーン期間中のアップグレード版が59.95ドルで発売されることがアナウンス済み）、アップグレードを望むユーザーは手頃な価格で買えることは明らかになっている。現行品のPCを安く買いつつアップグレード版を購入するのも1つの考え方だ。



ウィンドウズMeで標準搭載！

今月号CD-ROMでも  
インストールできるソフト

インターネットエクスプローラ 5.5  
CD-ROM収録先：[A]Msie\_55

音声チャット機能などが追加された最新版で、Me本体に入っているバージョンとは異なる

ウィンドウズメディアプレイヤー 7  
CD-ROM収録先：[A]Win Wmp7

MSNメッセンジャーサービス 3.0  
CD-ROM収録先：[A]Win Msn

## あわてずさわがず、自分に合ったOSを

## アップグレード派は

音楽や動画を楽しむのが主目的という人は、ウィンドウズMeのターゲットユーザーと言ってもよく、乗り換え価値は十分にある。また、とにかく新しいOSでないと気が済まないという人にも、それほど大きな出費を強いられずにアップグレードできるのはありがたい。問題は既存のPCがウィンドウズMeに対応できるかだ。手持ちのPCをアップグレードする場合には、装着したボード類やインストール済みのソフトウェアの対応情報を集めておこう。こうした情報をもとに必要なアップデートを入手するのもお忘れなく。

## これからパソコンを始めるならば

これからパソコンを始める、あるいは購入を予定しているのならばウィンドウズMeがプリインストールされたPCを待つのがベストだ。プリインストール機ならばMeの快適さを十分に引き出せるだろう。もちろん単にますますインターネットに接続してウェブやメールに……というならばウィンドウズ98でも構わない。しかし初心者ばかりの家庭でも1人1台PCを持つことだって珍しくない昨今、家に1つしかない電話回線を共有するためにはホームネットワークの設定が簡単になったMeの魅力は大きいことも付け加えておきたい。

ヘビーユーザー、  
ビジネスユーザーは2000を

本格的にPCを利用するのならばウィンドウズMeよりはウィンドウズ2000のほうがよい。サポートされるデバイスの範囲は多少狭くなるが、今後登場する多くの周辺装置はウィンドウズ2000にも対応する。またウィンドウズ2000はNT系OSが不得意としていたマルチメディア関係の機能が強化されている。今後ビジネスでの利用はウィンドウズ2000にシフトしていくのがマイクロソフトの方針である。安定性と今後の展開を重視するならば早めに2000に移行することをおすすめしたい。





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)